



Hi-Res
SOUNDS



CharacterVoice : 夏和小
Illustration by リゅうら



この度は『メタバース催眠サロンEsBloomへようこそ』をご購入下さり、
誠にありがとうございます！

ここ何年かVRSNSで過ごしてみて、色々な体験をしたんですが
その中で得たモノを音声作品として少しでもリスナーの皆さんに伝えられたらと思い制作しました。
昨今、リスニング環境などの変化もあり想定している環境や
オススメの機材等、改めて紹介できればと思います。
また、テーマにもなっている「VRSNSって？」という所から、聞きたくても聞けない(?)
ちょっとエッチなVRSNSの紹介などができたらいいなと思ってます。
という事で、さっそく行ってみましょう！



【雑多なメーカー】

Hi-Unit HSE-A5000PN-F (6000 円ぐらい)

今までの final 系とは違い、こちらはモニヤのカテゴリですが音質と定位はとても良い通向けの商品。環境音系の A S M Rに向いてる。安いのでお試しに買ってみたいと思います。普通のリスニングにも向いてるけど、多少聴き疲れするかもしれない。

SONY WF-1000XM5 (そこそこ高い)

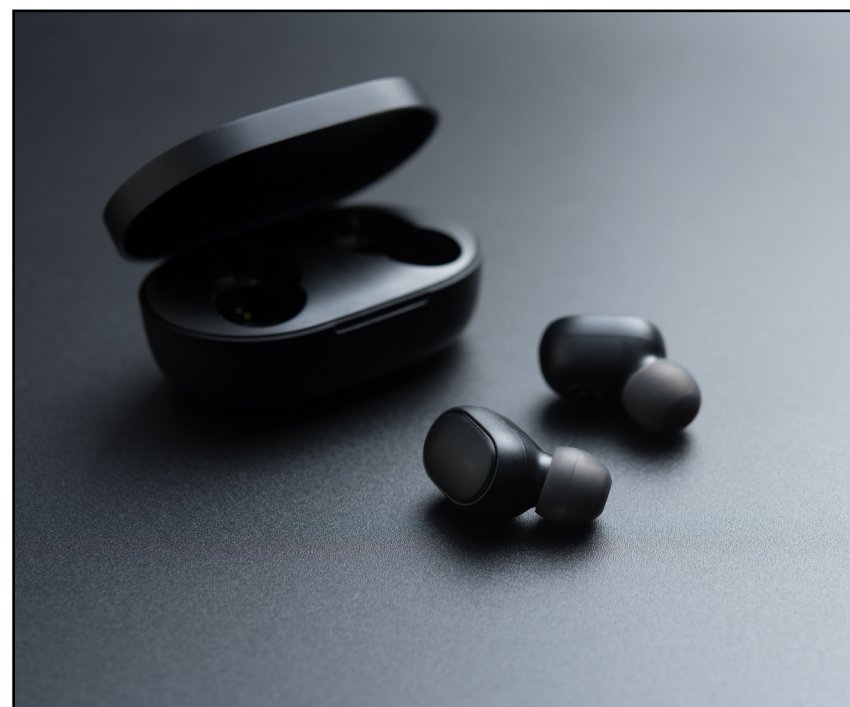
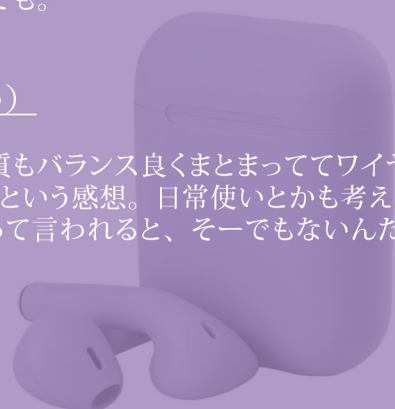
常用してるノイキャンワイヤレス。没入感は多分今回挙げた中で一番かも(ヘッドフォンの WH の方が良いけれども)。ただ、音の近さで言うと聴き劣り(?)するので A S M R向きでは無いです。音楽とかも一緒に楽しむなら良いと思います。音は綺麗。とても。

Anker Soundcore Liberty 4 (14000 円ぐらい)

巷で人気の SoundCore 試してみました。コスパ良くて音質もバランス良くまとまってワイヤレスイヤホンにおける Se215 ライクな立ち位置に納まったんだなあという感想。日常使いとかも考えるなら、これでいいんじゃないかなーと思う。A S M Rに向いてるかって言われると、そーでもないんだけど問題無く聴ける。そんな感じ。

【まとめ】

E500 が安すぎるんだよねー。これで良いじゃんってなるのは分かるけど、まあそれ以外の用途にはまったくもって向いてないので、専用イヤホンという事で割り切って使ってる人がほとんどなんじゃないかな。ワイヤレスなら COTSUBU for ASMR が良いと思います。付け心地も悪くないしイヤピちゃんと選べば完璧。



【final 系】

E500 (1800 円ぐらい)

言わずと知れたコスパ最強イヤホン。取りあえず 1 つ買っておいでも損は無い圧倒的な低価格と、価格以上の音質。音の定位はそこそこ近くバランスも良い。wired ならこれ一択でいいんじゃない? ってぐらいオススメできる。可能ならポタアンとか挟むと尚良いです。

VR3000 (8000 円ぐらい)

E500 の上位版という位置づけで問題ないかな? 音場の解像力はこちらの方が上。音質も中域の持ち上げ方に好き嫌いはあると思うけど及第点だと思う。ただ、E500 の 4 倍凄いかって言われると、そこまでじゃない。イヤピの種類が多くて自分にフィットするモノが選べるのは良いと思う。こちらもポタアン挟むと良いと思います。

ag COTSUBU for ASMR

ag COTSUBU for ASMR 3D (どっちも 8000 円ぐらい)

無印 A S M Rの方が音場が近いので、耳かきとか耳舐めとかならこっちが向いてます。E500 と同じような感じ。3 Dの方は VR3000 似で空間描写の方が得意な印象です。個人的には無印の方が音声作品“だけ”聴くには向いてると思う。ワイヤレスなので音が途切れる可能性がなくもないので、そこは注意です。



【最近のリスニング環境 2024 年最新版?】

ここ数年で A S M R用のイヤホン、ヘッドホン等が出たり、通常のモノでもかなり音質が良くなっていますよね。特に前述の A S M R用イヤホンは、ちゃんと差別化されており専用と謳うに相応しい商品があったりします。音場の再現に優れた開放型(半開放型とかも)ヘッドホンなども、作品によってはマッチするんじゃないかなと思います。

では実際に何がオススメなのか? という話ですが、今回の作品をテストするに当たって何個か試してみたので紹介します。

【聴く姿勢とかの話】

次にどんな姿勢で聴くのを想定してるの? っていうお話。ウチの作品は座って聴く事を前提にしてる事が多いので、リクライニングできる柔らかな椅子とかがベスト。ただ、ベッドで寝ながら聴く人も多いのも分かってます。(ヘッドでも問題無い様に構成してます)一応、オススメはそこそこ名のあるメーカーのゲーミングチェアにハニカム構造のクッションの組み合わせが最強だと思ってます。後あればオットマン(脚乗せるヤツね)も用意すると尚良し。ゲーミングチェアは意外とフルフラットまで倒せるモノが多いのと、アンバーサポートも意外と効果あるので相対的にコスパ良いです。後、ヘッドレストもあるのが重要。ハニカム構造の座布団(クッション?)は長時間座っててもお尻が痛くならないのと、蒸れにくいのと、お尻に何か突っ込んでても痛くならないので確実にあった方が良いでしょう。オススメ。

ざっとこんな感じでしょうか。周りの雑音等はノイキャン付きのイヤホン等を使えば現状ほとんど抑えられるので、没入感を大事にする人には良い時代になったんじゃないかと思えます。純粹に A S M Rを楽しむなら専用のイヤホンもあるし、ホント時代が追いついた感じですね。昔、こういったオススメイヤホンの記事を書いた時には想像もつかなかった未来です。

さて、次のコーナーからは V R S N S についての紹介になります。メタバースという言葉が一人歩きをして、言葉だけ知っている人も多いかと思いますが、実際、中ではどうなっているのか……。未体験の人向けに書いていきます。

【第1章：VRSNS（しな〜ん）】

一言でVRSNSと言っても、何種類かのプラットフォームがあるんですが、今回は自分（如月）がメインに遊んでいるVRChatについてお話しします。VRChat（バイアールチャット）は、バーチャルリアリティ（VR）技術を利用した、没入感の高いソーシャルプラットフォームです。こう書くとなんか難しいように思えますが、要はユーザーが自分のアバター（バーチャル上の分身）を作成し、他のユーザーと交流することを目的としたアプリケーションです。ゲームと言っても差し支えないんですが、あくまでX（旧Twitter）の様なSNSの派生形とおいて下さい。

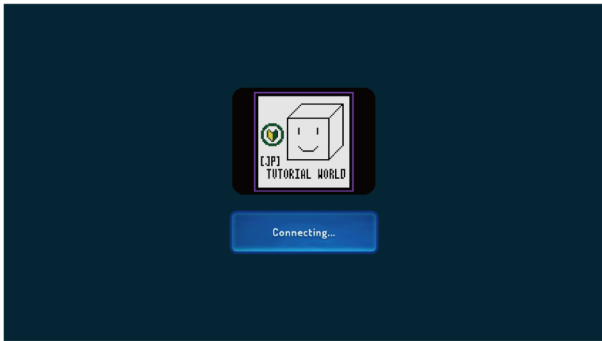
VRChatの特徴は、ユーザー自身が3Dの世界を作り上げ、そこで自由に活動できることです。現実世界では体験できないような空間や状況を作り出し、その中で他のユーザーとコミュニケーションを取ることができます。箱庭の様な世界を作ってそれをVRChatにアップロードして、実際そこに入り遊ぶことができるってイメージですね。

VRChatの世界（ワールドと言います）は多岐にわたります。現実世界を再現したもものから、ファンタジーやSFの様な架空の世界、アニメやゲームなどの再現ワールドまで、ユーザーの創造力次第で無限に広がっていきます。実際に毎日無数のワールドがアップロードされていて、全部見て回ることは不可能なぐらいたくさんあります。

VRChatではアバターを通して自己表現をすることができます。自分の理想の姿を作り上げ、その姿で他者と交流することで、現実世界とは異なる自分を体験できます。

また、VRChatではVR機器を使用することで、より没入感の高い体験ができます。まるでその世界に実際に入り込んだかのような感覚を味わえるのです。これは体験してみないと1%も分からないので機会があればレンタルとかでも良いので試してみたいですね。

VRChatは、新しいコミュニケーションの形を提供し、ユーザーの創造力を刺激する、まさにメタバースの先駆けとなるプラットフォームと言えるでしょう（大袈裟）。



↑ワールドにログインする時のローディング画面。プレイ初期はこの音楽を聞くだけでワクワクしたのを覚えている。なおいま……。

【第2章：VRChatの導線】

VRChatを体験するには、いくつかの準備が必要です。ここには、VRChatを始めるために必要な機器や手順について説明していきます。かなり面倒なんです（お金もかかるし）ここでめげる人が大半だと思います。そのお陰でVRChatの民度がある程度維持されている側面もあるので、難しいのですけどね。では細かく見て行きましょう。（もう遊んでる人には無用なモノなので読み飛ばしてね）

まず、VRChatを楽しむためには、パソコン（PC）が必要です。VRChatは無料でダウンロードできますが、一定のスペックが求められます。推奨スペックは以下の通りです：

- OS : Windows 10 以降
- CPU : Intel Core i5 (4コア) 以上、または AMD Ryzen5 (6コア) 以上
- メモリ : 8GB 以上
- グラフィックカード : NVIDIA GeForce GTX1060 以上、または AMD Radeon RX580 以上

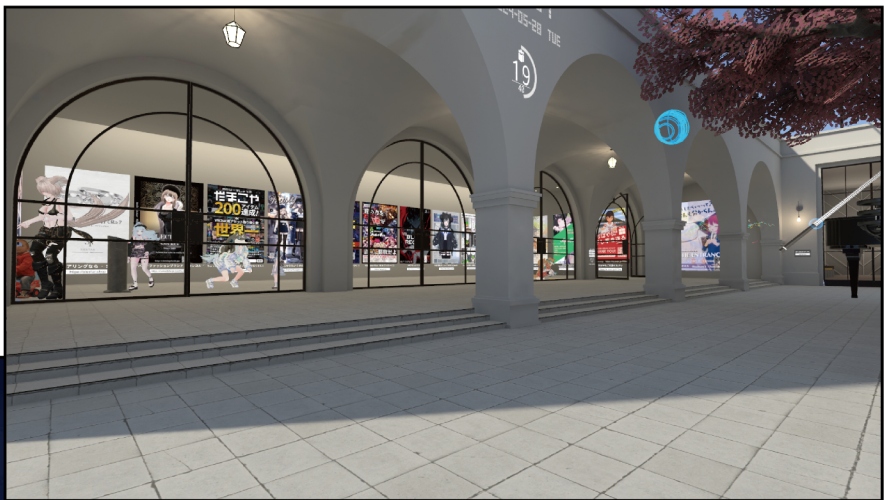
これはあくまでデスクトップ版VRChatを動かす為のスペックなので注意して下さいね。

次に、VRChatのアカウントを作成します。VRChatの公式サイトにアクセスし、「Sign Up」ボタンをクリックします。必要事項を入力し、アカウントを作成しましょう。そしてVRChat自体はSteamからダウンロードする為、Steamアカウントも必要です。こちらもSteamの公式サイトからアカウントを作成、クライアントアプリをインストール後、VRChatも合わせてインストールしておきましょう。

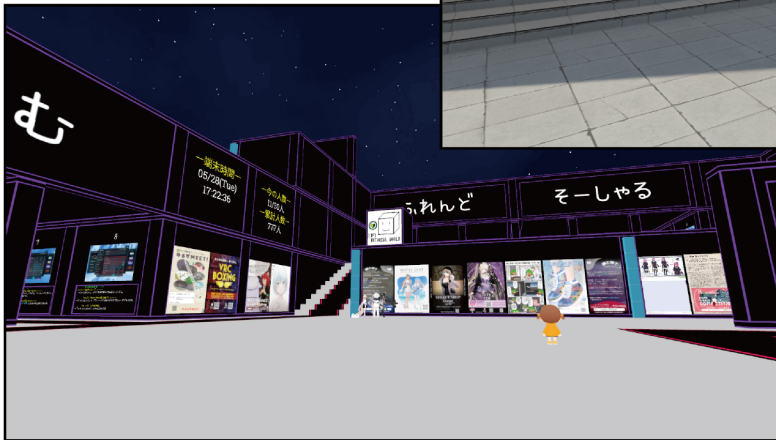
VRChatをより没入感高く体験するには、VR機器（HMD：ヘッドマウントディスプレイ）の使用をお勧めします。代表的なVR機器としては「Meta Quest2」同Quest3、Pico4などがあります。これらの機器を使用することで、より現実感のあるVR体験ができます。（現在入手可能で比較的安価なモノだけをチョイスしています）

VR機器を使用する場合、機器に対応したセットアップが必要です。各機器の説明書や解説ページなどを参考に、正しくセットアップを行ってください。意外とおま環の問題が出たりして大変かもしれないですが、そこさえクリアしてしまえば大丈夫です。これでも当初より大分ハードルは下がっているんです……。

以上が、VRChatを始めるために必要な準備です。次の章では、実際にVRChatを体験する方法について説明します。



↓これは「JP」TutorialWorldの遠景。ここではVRChatの操作等一通り学べるので、一番最初に来ると何かと重宝するかもしれない？



↑ある日の「日本語話者向け集会場「FUJIYAMA」」の風景。平日昼間でもそれなりの人が集まっていますね。

【第3章：VRChatを体験してみよう】

VRChatを始めるための準備が整ったら、実際にVRChatを立ち上げて体験してみましょう。以下は、VRChatを体験するための基本的な手順です。

1. VRChatを起動する
SteamクライアントからダウンロードしたVRChatを起動します。VR機器を使用する場合は、VRChatを起動する前に機器を接続し、電源を入れておきましょう。

2. ログインする

VRChatを起動したら、作成したアカウントでログインします。SteamアカウントかVRChatアカウントかどちらのアカウントでログインするか聞かれますが、今回はVRChatアカウントを選択して下さい。

3. アバターを選択する

ログインできたら、ホームワールドに降り立ちます。少し行った所に鏡(Mirror)って書いてあるやつ(です)があるのでそこまで行ってみましょう。移動はFPSでお馴染みのキーボードのWASDでの移動です。ミラーの隣にアバターを選択するパネル(ペダスタルと言います)があるので、それをクリックすると自分の分身となるアバターを変更できます。初期状態では限られたアバターしか選べませんが、後からアバターをカスタマイズしたり、新しいアバターをアップロードしたりすることができます。

4. ワールドを移動してみよう

アバターを選択したら、ワールドを移動してみましょう。VRChatには多種多様なワールドが存在し、ユーザーが自由に作成しアップロードしたワールドも豊富にあります。まずはホームワールドにあるポータルから興味のあるワールドを選んでみましょう。

5. ワールドを探索する
選択したワールドに入ったら、自由に探索してみましょう。VR機器を使用している場合は、実際にその世界に入り込んだような感覚で探索できると思います。

6. 他のユーザーと交流する
VRChat内では、他のユーザーと出会い、交流することができます。アバターを通して自己表現をしたり、他のユーザーとコミュニケーションを取ったりしてみましょう。
日本人が多くいるワールドは限られています。・[JP]「TutorialWorld」や・日本語話者向け集会場「FUJIYAMA」・近りが出来れば、予め自分が興味のあるイベントを見つけて、そこに行くのが良いと思います。VRChatイベントカレンダーなどを調べてみるのがオススメです。この一歩が大事です。

7. VRChatを終了する

体験を終えたら、VRChatを終了します。終了ボタンがとも分かりづらい所にあります。まずメニューを出して、右下にある歯車マークをクリック、次に右上の電源ボタンをクリックで終了できます。VR機器を使用している場合は、機器を安全に取り外します。

以上が、VRChatを体験するための基本的な手順です。VRChatはいつでも自由度の高いプラットフォームなので、これらの手順はあくまで一例です。自分なりの方法で、VRChatの世界を体験してみてくださいね。

ただし注意事項もあって、VRChatにはユーザーが作成した多様なコンテンツがこつたに存在するため、中には初心者にとって不適切なコンテンツに遭遇する可能性もあります。そのような場合は、速やかにそのワールドから立ち去ることをオススメします。ちよつとでも怪しい(版權ぶつこ抜きとか、それに類する著作権的にグレーなモノとか)と思ったら離脱しましょう。



HMD被ってFANZAとかVRエッチ動画
見つつオナニーするのも良いですよ。スマホで見る数倍臨場感があります。

実際、HMD買つてすることって、これとVR
ゲームぐらいしかないのでMR?知らない
ですね、コスパ的にどうなの?ってなりま
すが、そこは考えたら負けです。

【第4章：今回の音声の活用の仕方】

本作品「メタバース催眠サロン EsBloom」は、VRChat等の仮想世界を音声で再現しようとしている作品です。この章では、本作品を最大限に活用するための方法について説明していきますよー。

「リラックスした環境を作る

まず、リラックスできる環境を作ることが重要です。周りが静かなタイミングを選び、出来ればノイキャンイヤホン（ヘッドフォン）などを使用して外部の雑音を遮断しましょう。VR空間内で聞く場合は特にイヤホン、ヘッドフォンの使用をオススメします（HMD付属のスピーカーは音が悪い場合が多いので）

② 没入感を高める

より没入感を高めるために、目を閉じて音声に集中することをお勧めします。VR空間で音声を聴く場合は、暗く静かなワールドを使用すると良いと思います。最初は、音声に描かれる世界に思いを馳せ、自分がその世界にいるかのように想像してみてください。

3. VR 感度を意識する

本作品では、VR 感度を開発することを目的としています。音声の中で描かれるVR空間や感覚を、自分の体験として取り入れるよう、なんとなく良いので、意識してみてください。今までの音声作品で脳内で感じる事が出来る人は、それと同じような感覚です。

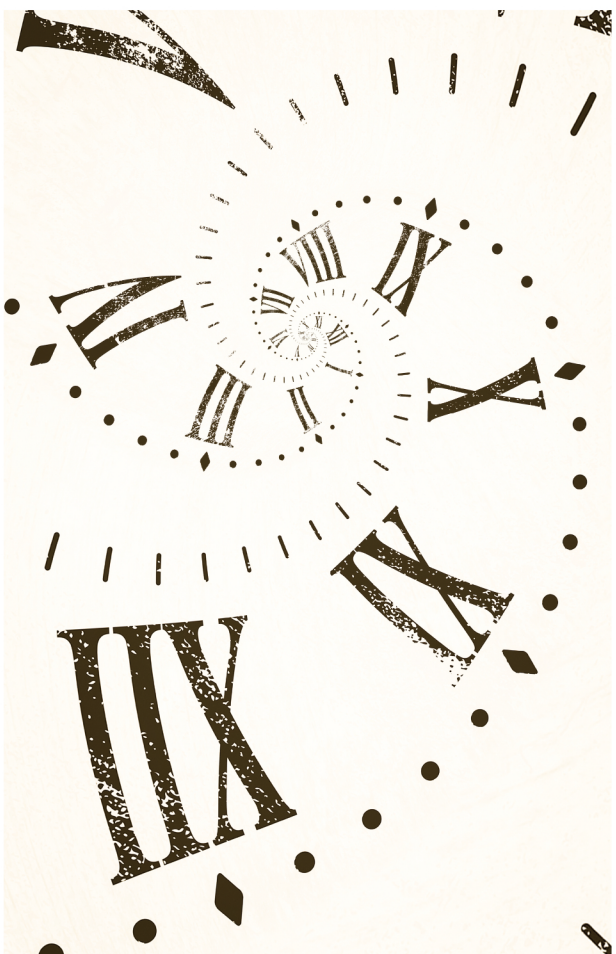
4. 音声の指示に従う

本作品では、リスナーに様々な指示が与えられます。これらの指示に従うことで、より深く作品の世界に没入することができます。ただ、無理に従う必要はないです。自分の想像出来る範囲、従える範囲で構いません。とても重要な事なので、色んな所で書いていたりするのですが、あくまでリスナーさんの解釈で良いんです。深く考えず「ああ、これはこういう事だな」と自分なりの解釈で受け入れるぐらいの心持ちがベストだと思ってます。

5. 繰り返し聴く

一度聴いただけでは、感度の開発は難しいかもしれません。繰り返し聴くことで、徐々に作品世界への没入感が高まっていく事も多いですし、前回と比較して少しでも違うなと思う事が出来れば着実に深度は深まっていると思います。また、先が分かる故に気持ちの持って行き方も慣れてくるはずですよ。音声に従うのにも慣れてくるので、より先に進めると思うので、自分を信じてリピートするのはとても良い事なんですよね。

以上の方法はあくまで一例です。音声作品、特に催眠音声は、ながら聞き、で十分なんです。気付いたら催眠にかかっているかも？ぐらいのリラックスした気持ちで聴いてみてください。VRで音声を聴くという体験は、まだまだ未知の人も多いかと思いますが、実際、お友達と一緒に聴いてみるとか、誰かに掛ける真似をしてみたら、してあげる等の遊びも簡単にできます（こっちは良いと思います）。是非、自分なりの聴き方やプレイ方法を見つけ出して下さい。



オナホやバイブ、はたまたUFOまで、VR空間での感覚をフィードバックできる技術が開発されているので、導入障壁はそこそこ高いと思いますが、準備できたら最高ですね。xxxHapticsで検索すると幸せになれるとか何とか……。





【仮想現実での現在と未来】

という事で、ここからはメタバース的なモノの現在と未来について書いていこうかと思うんですが、そんなの既にいくらでも語られているので、少しでも触れる程度で、その後は皆さんの知りたい事について書いていこうかと思っています。

現状のVRSNSs (VRChatを筆頭にResoniteやChilloutVRとか) は、ゆっくりと裾野を広げている感じですが、その拡大スピードはかなり遅いです。今のスピード感だと多分その内、他の某にプラットフォームごと取って代わられる未来なんじゃないかなと思います。

恐らくなんですが、触れたことの無い人にとってはブラックボックス過ぎて何をやっていのか分からないだろうし、漏れ伝わってくるのはバカ肉してバーチャルホモセックスしまくり、みたいな印象なんじゃないでしょうかね(偏見) まあ実際あんまり変わらないんですけど。

勿論それだけじゃないし、まっとうな人もそれなりに居て、それなりに仮想の世界を謳歌しているんでしょうけど。そんなのリアルが充実していたり、忙しかったりする人には全く関係ない別世界なんですよ。なので、未来はそんなに明るくないんじゃないかなーと悲観的に見えます。個人的にはですけど。という感じで、そんな閉鎖的な空間で何が行われているか、バーチャルホモセックスについてお話ししていきます。

【VRエッチってどんな事をするの?】

※前提条件として、公にVRでエッチする事は(現状あるプラットフォームでは)基本的に禁止されている事をご承知おき下さい。

VRゲームとかVRSNSとか体験した事が無い人は、VRでエッチな事ができるか? という点が気になっているのではないですか。結論から言うとVRで直接的な行為はまだ無理がある(不可能では無い)というのが如月視点での結論です。これは感覚デバイスがまだ未熟というのが最大の問題点で、脳に直接信号を送って擬似的に感覚が味わえる様にならないと本当の意味での性行為は無理なんですね。

では、なんで不可能では無いと書いたか。これは、オナホやパイプをゲーム内と連動させて気持ち良くなる事は現時点で可能だからです。しかもけっこう気持ちいいし興奮する。今までもゲームと連動してオナホやパイプが動くモノがあったと思うんですが(如月は未経験)、現在は、例えば2人でVRエッチをする時、ちんこをシコるとそれに合わせて電動オナホ(もしくはリングパイプ)が動くんです。原理は簡単で、ちんちん付近を写す見えないカメラを設置しておいて、ちんちんに何か触れたらその部分を動かすという事をさせてるんですね。(現在はカメラを設置しなくても当たり判定を持たせてそれに触れるモノがあれば検知するという感じになってたりしますが…意識) 穴に関しても同様です。これの良い点は能動的、受動的に感覚を享受できる事です。従来のゲームと違う点ですね。

もう一つ、VR感覚というモノがあります。これは催眠音声や音声を嗜んでいる諸氏には感覚的に分かって貰えると思うのですが、実際には触られていないのに、触られている様な気がする、というモノです(本作品で副次的に会得しようとしているものです)

個人的には視覚の拡張感覚だと思っているのですが、諸説あるでしょう、多分。

このVR感覚は個人差があって、まったく無い人、とても敏感な(だと思ってる)人等、千差万別です。

今回の音声は、このVR感覚を視覚だけでなく聴覚による拡張も含め同時に行ってみようという試験的な意味合いも兼ねています。

VR感覚は、前述した様に主に視覚的にVRで触れられている部分をリアルでも触れていると感じる事ができるものです。

欠点は視覚に頼る部分が大きいという点。当たり前ですが目を瞑った状態でVRで背中を触られても何も感じる事はできません。数多の音声作品は、そういう描写を言語化する事で擬似的に感覚を想起させ得ます。これも広義的にはVR感覚と同じモノだと自分は考えています。

視覚、聴覚を融合する事で、今まで以上にVR感覚を得やすい状態にしたい、VRエッチを捗らせたい、皆にVR感覚を生やしたい、今回はそんな音声です。(もちろん音声のみで完結しているので、音声だけ聴いているだけでもまったく問題ないです)

話が逸れました、昨今のVRプラットフォームではVR感覚を使ってエッチを楽しむ方が主流です。

擬似的な行為、対面に人が居るという環境、没入感等々により、人によっては脳イキ(ニメスイキ)も可能と言われています(かなり個人差がある)

個人の感覚的な話になってしまっていますが、本番なしの風俗のソレに近いモノという認識が近いかなと思います。

ちんちんを生やした可愛い女の子アバターに可愛い自分が犯される、ショタアバターを使って綺麗なお姉さんと甘々SEXする、触手に全身犯される・丸呑みされる、多人数にレイプされるシチュエーション等々、想像できるエッチはほとんど可能です(実際に出来るかは個人のコミニカ力に左右される面が大きいけど)

これは未経験の人に声を大にしていいたいんですが、自分の努力次第でどんなエッチも可能です(エッチに限らないですが)

VRには無限の可能性と無限の絶望が広がっています。合わない人は絶対に合わないし、適合できる人は無限に堕ちていきます。

VR空間なら、自分の好きな性別、容姿になれる。この恩恵は絶大で、ほとんどの人は鏡の前で雑談したりしてるんです。自分が可愛いから。もちろん人外や機械の身体もあるので、ほとんど全ての性癖にマッチする外見を手に入れる事ができますよ。中身が男？そんなのすぐ外見で書きされちゃうから大丈夫大丈夫……♡



【VRエッチしてみたい！】

ここまで読んでみて、興味ある人はどうすれば良いの？という疑問が出てくるでしょう。VRChatへの導線は前述の通りです。ここからはVRエッチするまでの行程をざっくりと説明していきます。

ここでは、VRChatにVRでログインできる前提で話していくので、この冊子の情報で分からない！って方は適当にネットで検索をしてログインできる様にしておいて下さい。

次に、自分のアバターにエッチな衣装を入れたり、全裸になれる様Unityというアプリケーションで下準備をします。やり方は検索して下さい。とっても面倒です（それでも最近は革命が起こって大分楽になったんです）

エロという原動力があれば、大丈夫、乗り越えられます。そしてここからがさらに大変です。エッチのお相手を見つけないけません。

VRChatにはお砂糖という文化があります。これは友達以上恋人未満ないし恋人という関係を表した言葉で、あまなまな関係、という所からきている言葉みたいです。

まあ、オブラートに包んでますが、可愛い見た目の男同士がいちゃつくのに、ネガティブな形容をされると傷つくナイーブな人がいっぱいいたんでしょう。結局は（以下検閲）

まずそういうコミュニティを見つけるのが第1目標です。一番手っ取り早いのは、VRChatアダルトスレ、通称アダスレを覗いて集会に参加してみる感じですかねー。どこにあるとかは普通に検索すれば出てくるので割愛します。

そこから交友関係を広げていくのがベターなのかな……？場所が場所だけに自己責任でお願いします。

多少回りくどいですが、エッチな。おはツイ。で知り合いを増やしていき、そういう雰囲気なフレンドにさりげなく聞いてみるという手もあります。

VRChatには、これまた、おはツイ。という特有の仕草がありまして、朝7時ちょうどぐらいに自撮り（大体は露出度が高かったり扇情的な写真）をおはツイの挨拶と共に×

（Twitter）上げる文化の事を指します。そして、この。おはツイ。に対し、おはツイの挨拶を返す、リツイートする事で拡散する互助会に入る事ができます。そうして知り合いを増やしていつて、好みの子を発見、お近づきになるという方法です。面倒くさいですね。でも、これがSNSなんです。諦めて下さい。でも、大丈夫、エロという原動力があれば、乗り越えられます。

そうこうして、そういうフレンドが出来たら初めてエッチができるって訳ですね！普通のオナニーで良くない？って思う人いっぱいそう。それ正解です。

←著者近影？





PostScripts

色々と遅くなってすみません。
というか、そもそも作品という形ではもう出す事はないかなと思っていたんですが、こうやってお手にとって貰えてという事は、そういう事なんだと思います。

内容としては、一時の熱量で突っ走った感じのSCRIPTで嫌いでは無いんですが、これは果たして受け入れられるのか?とリリースを迎えた今でも思っています。拙い部分もあるんですが、少しでもその熱を感じ取って貰えると嬉しいです。

ここ数年は色々ありました。ホント色々。そうそう去年(2023年)から、悪堕ち2コマ系VTuber“星鈴せいら”ちゃんのプロデュースをさせて頂いております。左のイラストの娘です。可愛いでしょ?

ん? プロデュース?と思った方、間違っていないので認識を改めて下さい。

古い言葉だとバ美肉になるんですかね、個人的には現時点でのTSの一番良い形だと思ってます。

気になる方は是非、Youtubeにてチャンネルを探してみてください。URLも記載しておきます。出来たらチャンネル登録もよろしく願いますね★

後書きを書くのも数年ぶりなので、何を書いてよいのかさっぱり分からなくなってしまいましたが、さて、この辺で切り上げようかなと。

続編は考えていませんが、要望多数だったり、数字的にやっても大丈夫かなという判断ができれば、あるいは……もしかすると……ぐらいの感触です。

という事で、また次回作とは言えませんが、どこかで会える事を願って。

Es.Lab. 如月いつ佳
2024.02.05



星鈴せいらの悪堕ちCh.
<https://www.youtube.com/@StarBellSeira>

【お願い】

本作品は著作権法により保護されています。

本作品及びその一部につきましても、権利者の許諾なく、インターネットや公共の場へのアップロード、公開等を行うことを禁止いたします。

万が一、権利者の許諾なくアップロード等が行われた場合、1ダウンロードまたはそれに類するアクセス数に対し、相応の料金を請求させていただく場合があります。

また、本作品の音声その他の一部及び全部を、生成AI等の学習に使用することを禁止いたします。使用が判明した場合は、関連する費用及び想定される被害に対する損害賠償金を請求させていただきます。

表紙・カバーアート：りゅうら 本文イラスト：Gaien 星鈴せいらイラスト：Santa

Copyright © 2024 Es.Lab All Rights Reserved.

